

台湾と私 (7)

恩情を噛み締めて 姉妹都市交流

きたばやしこういち 理事
北林孝市 ● 秋田県上小阿仁村村長



北林孝市理事

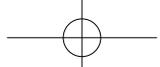
一九四三年、台湾の屏東師範学校を卒業し、高雄州潮州街の四林国民小学校へ赴任、教員住宅で同年齢で萬巒庄（現・屏東県萬巒郷）出身の涂英祥先生と生活を共にし、物心両面で兄弟以上に温かく支えていただく。現地では先生方や教え子、地域の皆さんと多くの思い出と深い絆を培うも、翌一九四四年二月、台湾第五部隊（山砲隊）に現役入隊。その時、涂先生が親族に代わって付き添い人として同伴されたご温情は、生涯私の脳裏から失せることはない。

六月中旬、迫撃砲隊に転属となり花蓮港に移動し、敵の上陸に備え、東海岸の陣地構築に従事。B 29 の空爆、低空飛行による機銃掃射、艦砲射撃などを受ける。一九四五年三月、桃園街に移動し、資材係班長として移送業務に従事す

る。やがて終戦となり、現地除隊。四林国民小学校に戻るも、教員住宅が使用できず、困惑していたところ、涂先生が萬巒郷五溝水の私宅に迎えて下さった。特に御母堂は実子のように面倒を見て下さり、家族挙げての温かな人間愛とご恩情の有難さを噛み締めた。

一時は台湾永住を決意したものの、十二月に入り、日本軍に籍のあった者は帰国のため台北に集結せよとの布告があり、別離を惜しんで台北市に向った。そして一九四六年二月、基隆港より駆船艇で鹿兒島港へ。鉄路で北上して三月七日、郷里の秋田県上小阿仁村へ帰還した。

その後は村での三十六年間の教員生活を経て一九八三年五月、村長に就任。その間、残念ながら涂先生は病气により、二子を残して他界さ



れた。しかし、弟で小学校教師として活躍していた涂必達氏が流暢な日本語を話せたため、文通を通じて交流が可能となり、一九九〇年（平成二年）、村議会が初の海外研修視察先として台湾を選択し、萬巒郷を訪問した。そこで姉妹都市提携を要請したところ賛同を得て、一九九一年に同郷より曾士忠郷長他二十二名が来村し、姉妹都市調印式を挙行了した。

その後、一九九二年に本村が提携答礼訪問。一九九三年、薛重雄代表主席（議長）他二十名が来村。一九九四年、日台地域交流事業として台湾政府が派遣した秋田県農業部門への視察団を本村が受託し、案内を行う。一九九五年、林昌徳郷長他二十四名が来村。一九九七年、本村より十八名が訪問。一九九八年、屏東師範学院の何福田学長、教授五名が本村の小中学校を視察。一九九九年、屏東師範学院五育樓落成の記念式典出席のため私たち三名が訪問。一九九九年、林昌徳郷長他三十一名が来村。二〇〇一年、私以下十九名が訪問。二〇〇四年、徐統盛郷長

他二十八名が親善交流のため来村。そして二〇〇五年九月、私以下十四名が訪問する予定だ。

本村の訪問団は毎回、屏東県長、屏東師範学院、萬巒郷、萬巒中学校、萬巒小学校、五溝小学校、四林小学校などを表敬訪問し、親善交流に努めている。

二〇〇三年、尊敬と信頼を寄せる李登輝前總統が提唱する台湾正名運動（せいめい）に賛同し、台北市で行われた総決起街頭行進に参加させていただいた。その日夜、李登輝先生を囲む懇談親睦の会へのご招待に預かり、日台の提携交流を主唱される先生の燃えるようなバイタリティーの凄まじさに圧倒された。先生の遠大で高邁なる人間性とご人徳に、日本人は大いに学ぶべきだとの思いを深くした。

目下、陳水扁總統閣下は中国の介入問題で苦慮されているが、ここはぜひとも李登輝先生と一体となり、台湾の未来確立と発展のために隠忍自重され、慎重に対処されることを衷心より期待、祈念申し上げます。